

愛知県名古屋市

メタバース技術を活用した 効果的な防災啓発



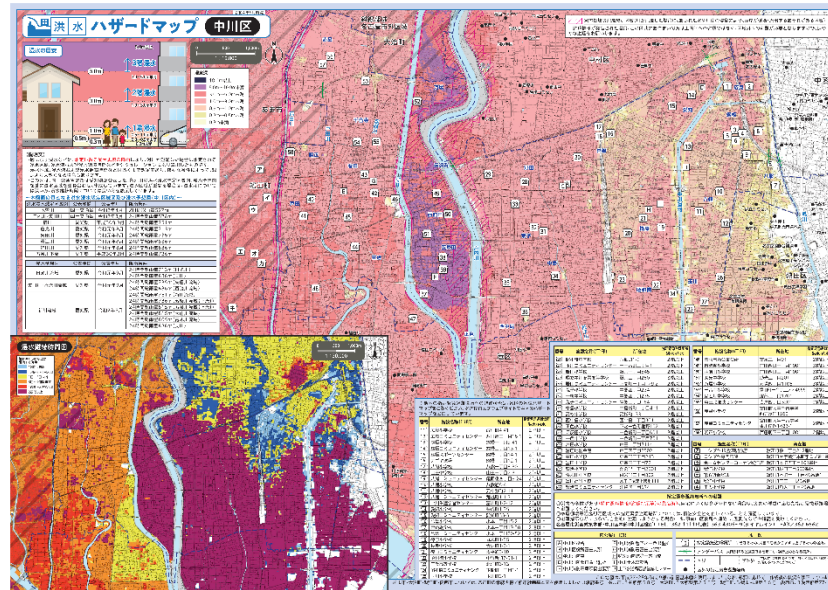
防災啓発キャラクター
クルカモ・アスカモ

名古屋市防災危機管理局
防災企画課 課長補佐

山川 雅也

現状（本市の主な防災啓発）

- ▶ なごやハザードマップ防災ガイドブック
- ▶ ハザードマップ（洪水、内水氾濫、高潮や地震、津波、ため池などの災害）
- ▶ 名古屋市防災アプリ



(iOS)



(Android)

現状（本市の主な防災啓発）

- ▶ 港防災センター（防災啓発施設）
- ▶ 防災訓練、防災講演会など

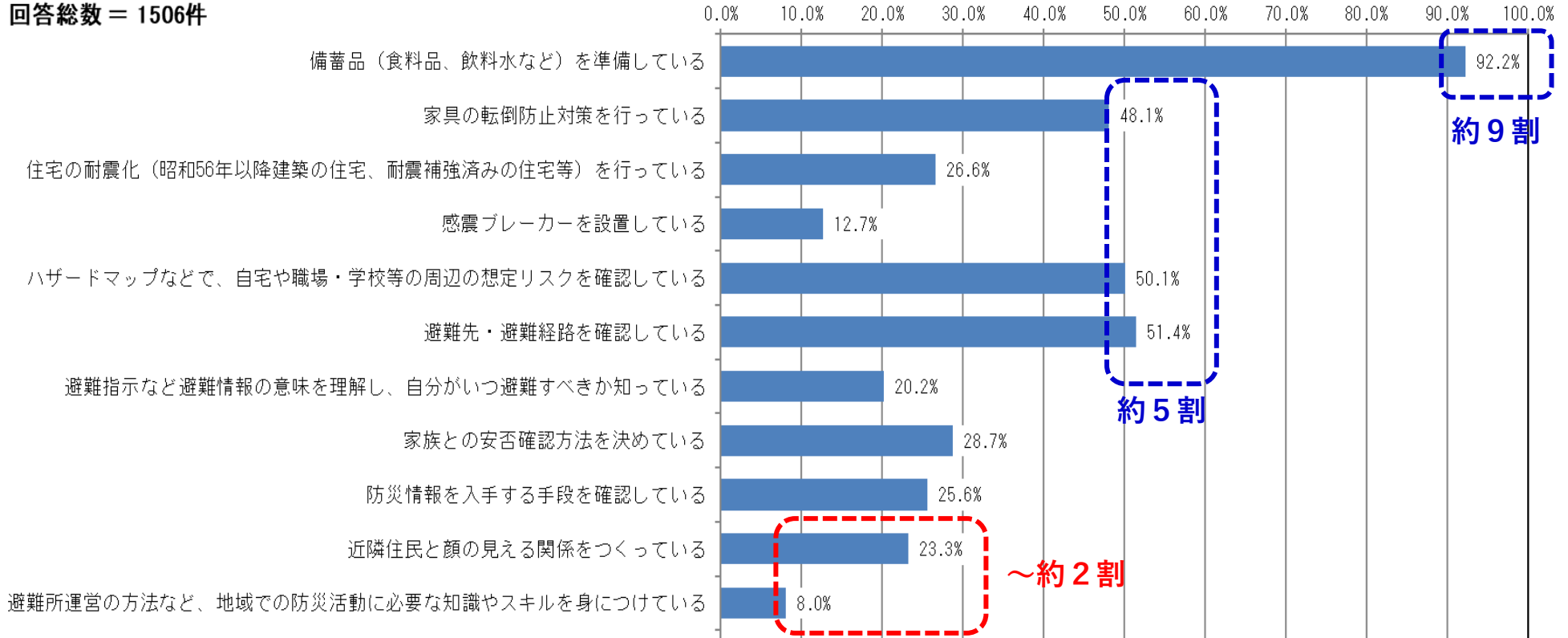


現状（本市の防災意識）

問：あなたが、災害に対して備えていることは何ですか。

※令和6年度第10回
ネット・モニターアンケートより

回答総数 = 1506件



👉 備蓄品（食料品、飲料水等）の準備が約9割、家具転倒防止対策、被害想定や避難先等の認識は約5割に留まっている。

👉 一方で、近隣住民との顔の見える関係をつくる、地域防災活動に必要な知識を修得する市民も2割以下と特に低い状況。

👉 **上記から、自助の備えは一定進むものの、特に共助の備えができていない。**

- 大規模災害時には、行政の対応には限界があるため、市民一人ひとりが災害を自分事としてとらえて、「自分や家族の命は自らが守る」「皆とともに助かる」意識を持ち、日頃から備えを進めることが重要である。
- 家庭での備えは一定進むものの、防災訓練に参加したり、町内会に加入したりなど、地域での防災力の向上に課題がある。

 **実際の災害をリアルに体感できる機会は少なく、また、防災イベントや訓練への参加者のすそ野を広げていく面で悩みを抱えている。**

- 仮想空間内に街の被害状況を再現するなど、**リアルでは体験しがたい臨場感や没入感のある学び**を提供できること
- **「誰でも」「どこでも」「いつでも」自由にアクセスできる**という特徴から、これまでに防災に触れる機会が持てなかった層への参加促進、さらには研修会や訓練にも活用できるなど、有用なツールの一つと考えている。

- メタバースを活用して、効果的に市民一人ひとりの防災意識を向上させ、地域全体の防災力の底上げを図ることを目指し、**市と連携実施が可能な企画を提案**してほしい、または、**連携した実証実験**をしたい。

メタバース上で参加型の 水害対策訓練を実施

(画像：NTTコミュニケーションズ)



① 既存のメタバースプラットフォーム を利用可能なもの

- 対面での防災イベントや講習会の実施後に、アフターミーティングの実施
- メタバース空間での防災イベントの実施



②新たにメタバースプラットフォームを作成する必要があるもの

- 実際の名古屋市の街並みを再現した空間

→最大規模の災害を空間内で発生させ、災害を体験

→空間内にいる人で、避難の仕方等を実際に体験

- 港防災センターのメタバース空間を作り、災害体験を実施

